

(様式1)

提案機関 宮崎県総合農業試験場 番号 4

「農業新技術2014」の選定候補技術(研究成果)

① 研究成果名	ブドウ「サニールージュ」の果房伸長促進処理による摘粒作業の省力化
② 開発担当機関	宮崎県総合農業試験場果樹部
③ 開発年度及び関連するプロジェクト、競争的資金名	旬を彩るみやざきの落葉果樹ブランドの栽培技術開発(2006～2010年度)
④ 技術開発の目的	・宮崎県では「サニールージュ」をブランド品目として認証しているが、軸長が短く果粒が密着しすぎるため、果房の形を整える摘粒作業に多大な労力がかかってしまっている。そこで、果房伸長および摘粒作業の省力化のためのジベレリンの処理方法を試験した。
⑤ 研究成果の概要	・展葉5枚時にジベレリン5ppm溶液を花穂に散布すると軸伸長が促進し、摘粒時間を40%削減できる。
⑥ 研究成果を導入した場合のメリット(経営試算に関する情報等)	・果房伸長促進処理により、10aあたりの摘粒作業時間は48時間から28.8時間に短縮される。重労働(肩上の作業のため)の摘粒作業の時間が40%削減できることは、大きな軽労化となる。コスト面では、労働条件を一日8時間労働・日給6000円とした場合、摘粒とジベレリン処理時間の短縮により10aあたり20,400円の人件費を削減することができる{(48時間÷8時間×6000円)－(28.8時間÷8時間×6000円)－6,000円}。ホルクロルフェニロン加用によって、ジベレリン処理費用においては7,165円{9,265円(果房伸長処理)－2,100円(慣行処理)}の負担増になるが、人件費を加味すると、総じて10aあたり13,235円(20,400円－7,165円)のコスト削減になる。 【慣行】 満開時GA25ppm、満開後10日25ppm 【新技術】 展葉5枚時GA5ppm、満開後3日GA25ppm＋FL10ppm
⑦ 研究成果の普及対象と普及見込み(※注1)	「サニールージュ」は果粒が密着ぎみであるため、摘粒作業に多くの労力を要することや、摘粒作業が遅れても、比較的作業がスムーズに行えることから、県内の全栽培面積での普及が見込まれる。(県内栽培面積、8.8 ha)
研究成果の普及目標(※注1)	・宮崎県内の「サニールージュ」生産者(宮崎県内栽培面積8.8ha)
⑧ 研究成果の現在の普及状況	・果房伸長処理については現在5～6haほど普及している。
⑨ 研究成果の普及の取組	・県内の生産者や普及員、大学の研究者などを対象にした成果発表会の開催や刊行物に成果を掲載するなど成果情報の普及活動を積極的に行っている。
⑩ 関係する施策	・関連する施策を選択してください。 1 水田・畑作等の生産資源の最大限の活用 2 国産小麦・米粉の利用拡大 3 飼料自給率の向上 4 食品の安全性の向上 5 農産物の加工・業務用需要対応 6 需要に応じた生産拡大 7 農産物の付加価値の向上や輸出促進 8 生産資材のコスト削減 9 バイオマスを基軸とする新たな産業の振興 10 集落機能の維持と地域資源・環境の保全(鳥獣害対策を含む) 11 地球温暖化対策への貢献(省資源・省エネルギーも含む) ⑫ その他(緊急性のある課題等)
⑪ 本技術(研究成果)に関連するURL、マニュアル等の作成状況	本技術(研究成果)に関連するURL、マニュアル等は作成していない。
⑫ 本技術の問い合わせ先(※注2)	・宮崎県総合農業試験場果樹部 TEL:0985-73-7099 FAX:0985-73-2127

別紙 関連

⑬ 該当する分野	果樹
⑭ 普及が期待できる主な都道府県(希望意見照会先)	・宮崎県、山梨県、長野県、青森県、岩手県
⑮ その他補足情報(技術を導入する際の留意事項等)	・翌年の発芽率の低下や花芽分化が劣るのを避けるために、ジベレリンの散布はハンドスプレーなどを用い、新梢にかからないように花穂に行う必要がある。
⑯ 9月末からの変更点(※該当する場合に記載)	

注1)「⑦研究成果の普及対象と普及見込み、普及目標」は、「農業新技術2014」の普及計画及び普及目標の策定の際の参考とします。

注2)本問い合わせ先は、基本的に、当局からの問い合わせ及び都道府県への意見照会(10月)の際の農業革新支援専門員からの問い合わせ先として使用させていただきます。

注3)研究成果ごとにA4サイズにまとめてご提出願います(2ページまで)。また、必要に応じて、参考資料の添付をお願いします。

ブドウ「サニールージュ」の果房伸長促進処理による摘粒作業の省力化

果房の伸長をジベレリン処理で促し、摘粒作業を省力化

研究開発の背景

- ・赤色系ブドウ品種は生産者・消費者からの需要が高い。そのような中で「サニールージュ」は西南暖地でも着色する優れた品種である
- ・しかしながら、果房の軸長が短く、果粒が密着しすぎるため、果房の形を整える摘粒作業に多大な労力がかかっている。
- ・そのため、省力栽培技術の開発が求められている。

研究成果の内容

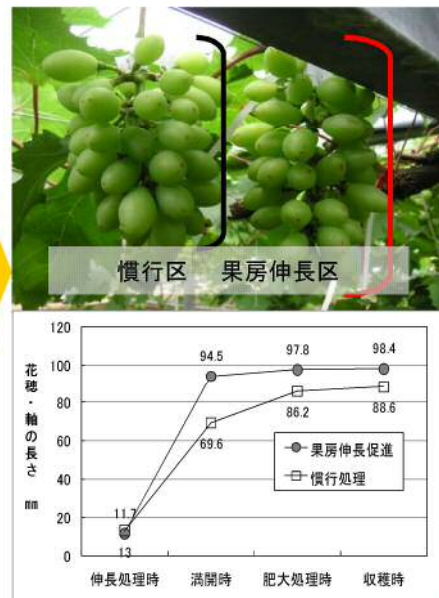
展葉5枚時にジベレリン5ppm溶液を花穂に散布すると摘粒作業時間が大幅に削減できる

処理目的	処理方法	処理時期
果房伸長処理	GA5ppm 散布処理	展葉5枚時
無核及び肥大処理	GA25ppm +ホルクロ ルフェニユロ ン10ppm 浸漬処理	満開 3~5日後

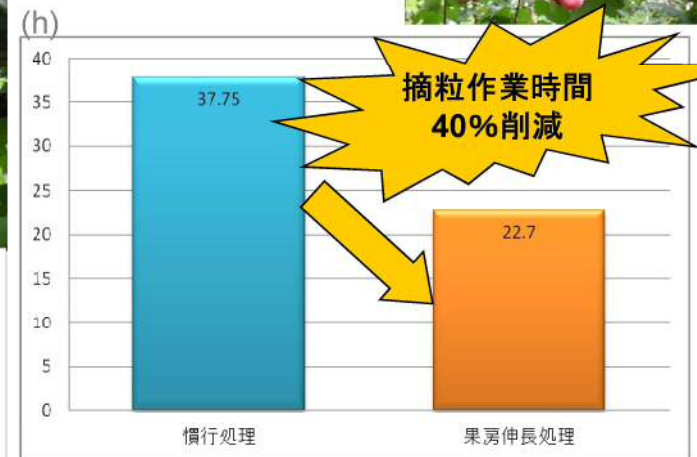


花穂にGA5ppmを
スプレー散布

効果



軸伸長の促進



摘粒作業時間の短縮

(データは10a換算摘粒時間: 一粒重6gの果粒を55粒つけた果房を、10aあたり1.2t収穫すると仮定し、3,600房/10aで算出)

期待される効果

摘粒作業が省力化され、労力の軽減とコスト削減に繋がる

導入をオススメする対象
サニールージュ生産農家